

第六次総合計画 施策評価シート(令和2年度)

2-②

施策

くらしき文化の保存・継承と活用を図る

担当部局

教育委員会, 文化産業局, 総務局, 企画財政局

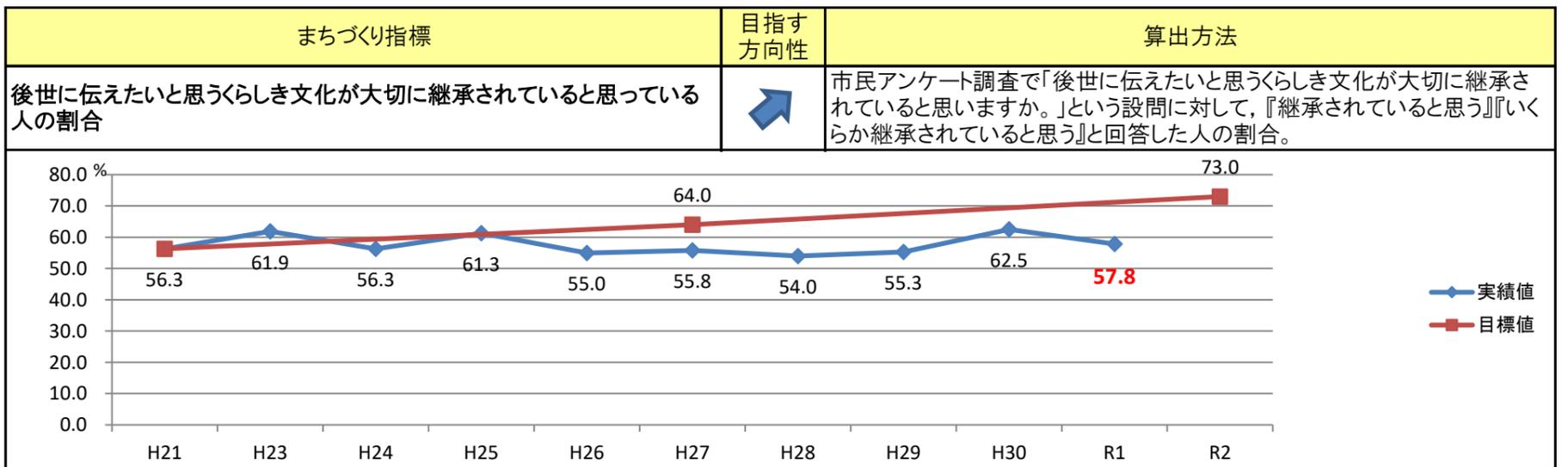
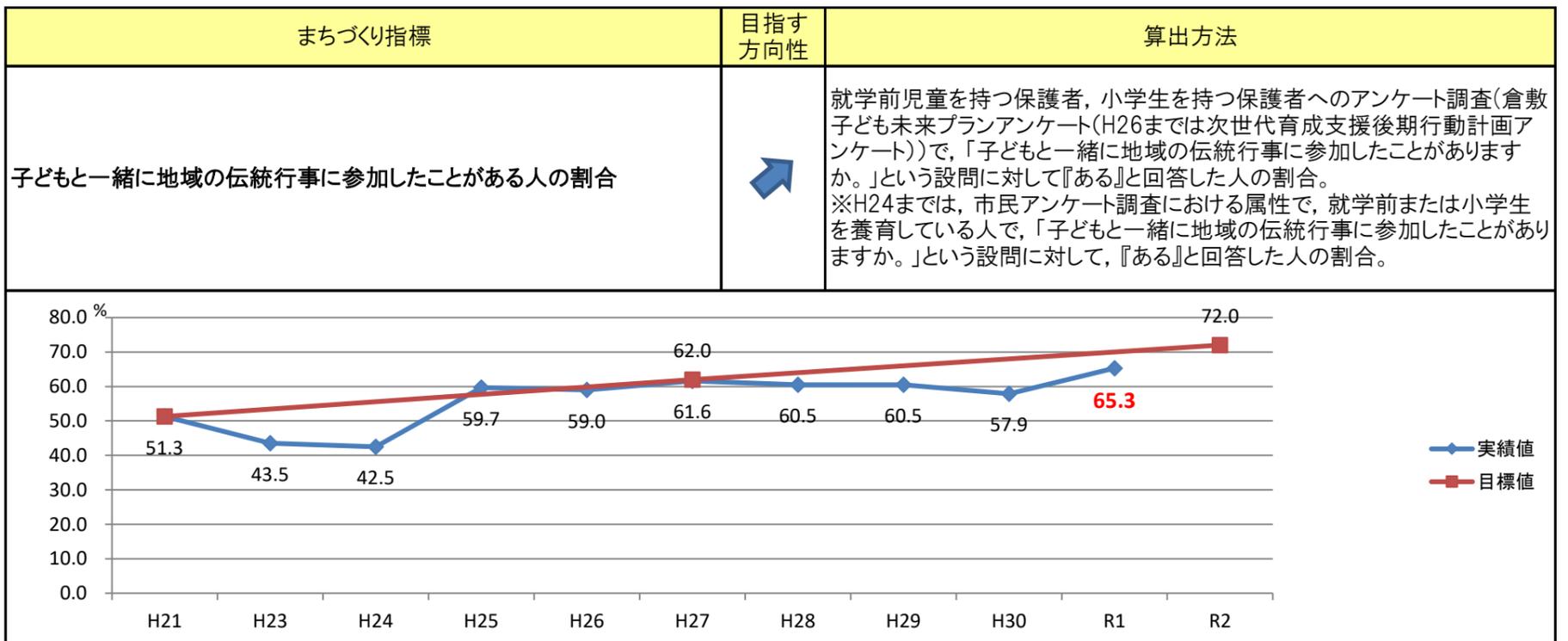


【豊か】めざまし姿 世代を超えて受け継がれてきたくらしき文化が大切に継承され、輝いている

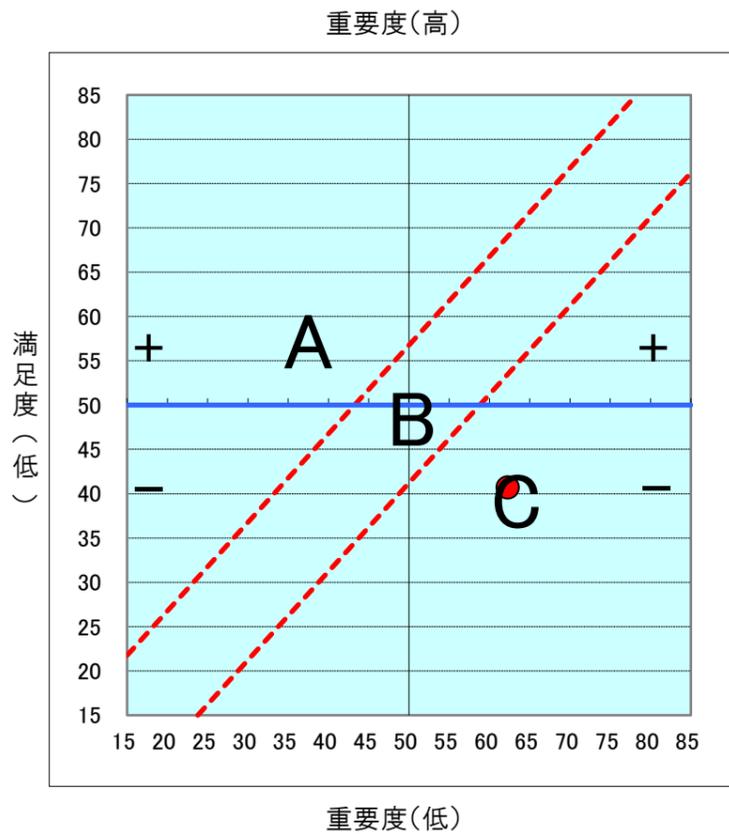
市の基本方針

- 歴史的遺産や文化財、地域のお祭りや郷土料理など、世代を超えて受け継がれてきた多様な「くらしき文化」の良さを広く知ってもらうとともに、それらを磨き上げ、世界に輝かせます。
- 文化財保護意識の普及啓発を図り、市内の文化財について情報収集するとともに、調査成果を広く市民に情報公開します。また、歴史的・学術的・芸術的価値の高いものは、文化財として指定するなど、適切な保存と活用を図り、数ある有形・無形の文化財を後世に引き継ぎます。
- 郷土の偉人を研究・顕彰するとともに、地域に根ざした文化活動を支援し、地域性豊かな市民文化の振興に努め、絶やすことなく伝え広げます。また、地域固有の文化資源を掘り起こし、伝統に基づくものづくり技術や豊かな感性を活用することなどにより、産業振興、観光振興につなげます。
- 市民共有の貴重な財産である公文書や古文書などの歴史資料を収集し、体系的に整理し、保存と公開によりその活用に努めます。

数値目標



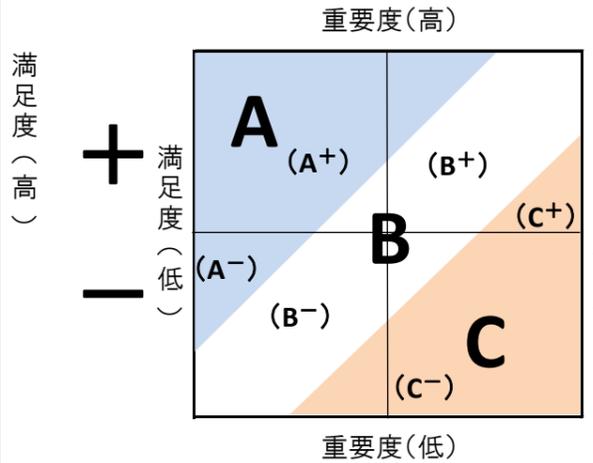
市民の重要度・満足度(R2.5アンケート調査結果)



領域	偏差値	
	重要度	満足度
C ⁻	40.69	62.29

●重要度に見合う以上の満足度が得られている(C)
●重要度が平均値より低い(-)

【グラフの見方】



A: 重要度に見合った満足度が得られていない領域
 B: 重要度に見合った満足度が得られている領域
 C: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域

※ 以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)
 +: 重要度が平均値より高い部分
 -: 重要度が平均値より低い部分

A⁺, A⁻, B⁺, B⁻, C⁺, C⁻

A⁺: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価

区分	事業名	目的(I)／令和元年度の主な実績(II)／今後の方向性(III)	R1年度決算額(千円)
公創	伝統的建造物群保存地区・伝統美観保存地区・町並み保存地区保存事業	(I) 伝建地区・伝美地区及び町並み保存地区内の歴史的景観を保存することを目的に実施した。 (II) 建物の外観の修理・修景に対して、伝統的建造物群保存地区で6件、伝統美観保存地区で2件、玉島町並み保存地区で1件の補助金を交付した。 (III) 継続して実施する。	51,832
	文化財保護事業	(I) 文化財や史跡の保存、活用を図り、後世に引き継ぐことを目的に実施した。 (II) 文化財・史跡公園等の環境整備・維持管理を行い、適切な保存と利用しやすい環境を維持することができた。文化財保護審議会・伝統的建造物群等保存審議会を開催し、文化財の保護に努めた。また、各種講座等に講師として職員を派遣し、文化財の保護意識の醸成に寄与した。 (III) 継続して実施する。	11,443
公創	国指定重要文化財 井上家住宅保存修理事業	(I) 国指定重要文化財である井上家住宅を保護することを目的に実施した。 (II) 文化庁とも協議しながら復原計画を決定し、主屋の造作工事、井戸蔵・三階蔵の解体・保存修理工事を行った。令和元年度から始まった防災設備整備事業については防災設備設計を行い、公開活用事業については展示計画や管理施設の設計を行った。 (III) 令和4年度まで継続して実施する。	9,686
公創	指定文化財保存事業	(I) 指定文化財の保存管理に必要な措置を講じ、後世に引き継ぐことを目的に実施した。 (II) 国指定重要文化財「大橋家住宅」屋根塀の保存修理、「旧野崎家住宅」耐震診断等事業、及び県天然記念物「阿知の藤」再生事業にかかる費用の一部を助成した。 (III) 継続して実施する。	6,083
	埋蔵文化財保護事業	(I) 文化財保護法の趣旨に則り、開発行為から埋蔵文化財を適切に保護することを目的に実施した。 (II) 埋蔵文化財包蔵地内での開発行為の内容に応じて、確認調査を12件、立会調査を78件実施した。また、平成29・30年度の活動実績を収録した「倉敷埋蔵文化財センター年報17」を刊行し配付した。 (III) 法定業務として遺漏なく実施する。	6,201
	埋蔵文化財調査事業	(I) 市内の貴重な遺跡について、正確な範囲等を調査し、文化財の適切な保護及び活用を図ることを目的に実施した。 (II) 縄文時代の貝塚として全国的に著名な中津貝塚(玉島黒崎)の確認調査及び歴史的価値の高い瀬戸2号墳(真備町尾崎)の測量調査を実施した。中津貝塚については令和2年度まで継続。 (III) 継続して実施する。	1,992
	歴史民俗資料館管理運営事業	(I) 収集した郷土の歴史民俗資料を保存・展示し、市民の教養の向上、調査研究等に資することを目的に実施した。 (II) 歴史民俗資料館(倉敷・福田)において、収集した郷土の歴史民俗資料を保存・展示した。施設の管理運営については指定管理者制度により行っている。 (III) 継続して実施する。	2,561
	埋蔵文化財教育普及事業	(I) 埋蔵文化財に関する学習活動を支援し、郷土愛と地域の誇りを育むとともに、埋蔵文化財行政に対する理解を得ることを目的に実施した。 (II) 埋蔵文化財や歴史に関する講座の開催、イベント企画、インターンシップ受入れ、講師派遣など延べ36回実施し、合計3,462人の参加があった。講座等を含め、埋蔵文化財センターの総利用者数は14,389人であった。 (III) 事業の企画を工夫しながら継続して実施する。	309

区分	事業名	目的(Ⅰ)／令和元年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R1年度 決算額 (千円)
	歴史資料調査研究整備事業	(Ⅰ) 市民共有の財産である歴史公文書、古文書などの適切な収集、整理、保存、活用を図ることを目的として実施した。 (Ⅱ) 約31万点の歴史資料を所蔵しており、うち約23万点を目録化している。資料展示会を開催し、538人が来場した。古文書解読講座・歴史資料講座・文書調査報告会受講人数は合計289人であった。『倉敷の歴史』の販売・寄贈冊数は776冊(うち販売は134冊)であった。歴史資料利用のために494人が歴史資料整備室に来室した。職員が行った講演受講者は607人であった。 (Ⅲ) 保存された歴史資料について、より一層市民が利用しやすい体制となるよう継続して実施する。	9,845
公創	日本遺産推進事業	(Ⅰ) 市と関係団体で組織する倉敷市日本遺産推進協議会を中心として、本市の日本遺産を生かした地域の魅力向上と活力創出の取組みを行う。 (Ⅱ) 情報発信の拠点である「日本遺産インフォメーション」3カ所の整備、自転車や徒歩で周遊可能な構成文化財を巡るガイドブックと3つの日本遺産を紹介するリーフレットの制作、高校生が提案した地域研究や活動プログラムを通じた魅力発信事業や成果発表会など、多様なターゲットにアプローチしながらストーリーの魅力を発信した。 (Ⅲ) 活用可能な国の補助金など、新たな財源確保を図りながら普及啓発により効果的な事業を検討し、継続して実施する。	30,413